

じょうこうじ

# 掟光寺だより

令和4年  
6月号

## 行事案内

●6月16日(木)  
「宗祖報恩講」

13時30分から



## 仏教たとえ話

お釈迦さまは「沈黙しているものも非難され、多く語るものも非難され、少し語るものも非難される。この世に非難されないものはない」と言っています。つまり、生きていくだけで私たちは生きていくだけで非難されるものなのです。でも、非難が自分に非があるものならばまだいいですが、事実無根の非難(噂話や悪口)は嫌なものです。

噂話や悪口はだいたい「嫉妬」から生まれてきます。あなたが

「できる人」「可愛い人」「他の人とは違う特別な人」であるからこそ、妙な噂話や悪口を言われるわけです。このような噂話や悪口を言われた時はどうしたらいいのでしょうか？

実はあのお釈迦さまですら、かつては悪口や噂話を立てられ、人々から軽蔑の目で見られたこともあったのです。



### 【お腹が大きな遊女の話】

お釈迦さまの教えは当時のインドの人々にそれまでであった他の宗教者(バラモン教など)から妬みの対象になりました。お釈迦さまの教団に自分の信者や弟子たちを取られてしまったため、お釈迦さまが面白くないわけです。

ある日、とある女性が大きなお腹を抱えて、お釈迦さまの元にやってきて、お釈迦さまに向かって

「このお腹の子はあなたの子だ。もうすぐあなたの子どもが生まれるのだから、責任を取ってくれ」と言ってきました。



当然、お釈迦さまはそんなことをしたことはないのですが、「お釈迦さまが街の女性をもてあそび、妊娠させた」という噂話は瞬く間に広がりました。他の宗教者たちが陰で噂話を広げていたのです。

そんなことを知らない街の人たちは「お釈迦さまは偉そうなことを言っているが、街の女性を妊娠させたインチキ宗教者だ」と思うようになり、さらに噂や悪口が広がりました。お釈迦さまやその弟子たちは街の人たちから無視されるようになり、托鉢もままならなくなりました。

修行生活がままならなくなったお釈迦さまたち。弟子たちからは「お釈迦さま、なんとかしないとこのままでは教団が潰れてしまいます。この街を出たらどうでしょうか？」と訴えました。

それに対し、お釈迦さまは「私は何もやましいことはありません。」

このまま堂々としていればよろしい。そのうちに真実がわかって、噂話や悪口も消えることでしょ」と言って、噂話や悪口に反論せず、黙って無視していました。

やがて、女性のお腹のふくらみは、布を巻いていただけのインチキであることが分かりました。女性は捕まり、そこで他の宗教者から雇われてやったことを白状したため、お釈迦さまの身の潔白は証明されました。

それまで散々悪口を言っていた街の人たちはお釈迦さまに謝罪しました。

するとお釈迦さまは「何も反論しなかったことが良かったのだ。人は少しでも喋れば非難される。自分の言動が正しいのであるなら、黙っていた方が賢明である。何か喋っても揚げ足を取られるだけだ」と説かれました。

この一件でお釈迦さまや弟子たちは以前にもまして街の人々の信頼を得ることとなり、一方、お釈迦さまが貶めようとした他の宗教者たちは信用を失ってしまいました。

【沈黙は金、雄弁は銀】

